


製品安全データシート

作成日：2025 年 10 月 27 日

1. 化学品及び会社情報

| | |
|-------------------|---|
| 製品名 | CyStain™ BacCount Total – CyStain Green |
| 〔構成品名〕 | |
| 供給者の会社名称、住所及び電話番号 | シスメックス株式会社 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号 シスメックス株式会社 テクノパーク 〒651-2271 神戸市西区高塚台4丁目4番地の4 TEL：(078) 991－1911 |
| 緊急連絡電話番号 | TEL：(078) 991－1911 |
| 推奨用途 | 研究用試薬 |
| 使用上の制限 | 推奨用途以外の用途へ使用する場合は専門家/化学物質 専門家等の判断を仰ぐこと。 |

2. 危険有害性の要約

| | |
|-------------|--|
| 化学品の GHS 分類 | 引火性液体 区分 4 |
| 物理化学的危険性 | 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) 区分 2 (呼吸器) |
| 健康に対する有害性 | 区分に該当しない |
| 環境に対する有害性 | |
| GHS ラベル要素 | |
| 絵表示 |  |
| | GHS08 |
| 注意喚起語 | 警告 |
| 危険有害性情報 | H227 可燃性液体 H371 臓器の障害のおそれ (呼吸器) |
| 注意書き | P210 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。 P260 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 P264 取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。 P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 P280 適切な保護手袋、保護眼鏡、保護衣、保護面を |
| 安全対策 | |

| | |
|----------------------------------|--|
| 応急措置 | <p>着用すること。</p> <p>P308+P311 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。</p> <p>P370+P378 火災の場合：消火するために適切な消火剤を使用すること。</p> |
| 保管 | <p>P403 換気の良い場所で保管すること。</p> <p>P405 施錠して保管すること。</p> |
| 廃棄 | <p>P501a 内容物、容器を国、都道府県又は市町村の規制に従って廃棄すること。</p> <p>P501b 専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。</p> |
| GHS 分類に関係しない又は GHS で扱われない他の有害危険性 | 情報なし |

3. 組成及び成分情報

| | |
|-------------|-------------------|
| 化学物質・混合物の区別 | 混合物 |
| 成分の化学名 | ジメチルスルホキシド |
| 濃度又は濃度範囲 | 99.8 wt%以上 |
| CAS 番号 | 67-68-5 |
| 化審法 官報整理番号 | (2)-1553 |
| 安衛法 官報整理番号 | 既存 |

4. 応急措置

| | |
|------------|--|
| 必要な応急処置の説明 | |
| 吸入した場合 | ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。 |
| 皮膚に付着した場合 | <p>ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。</p> <p>多量の水と石鹸で洗い流す。</p> <p>皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。</p> |
| 眼に入った場合 | <p>ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。</p> <p>眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。</p> <p>眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。</p> |
| 飲み込んだ場合 | ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。 |

| | |
|-----------------------|---|
| 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 | と。 口をすすぐこと。 情報なし |
| 応急措置をする者の保護に必要な注意事項 | 情報なし |
| 5. 火災時の措置 | |
| 適切な消火剤 | 粉末消火薬剤、水溶性液体用泡消火薬剤、二酸化炭素、乾燥砂、霧状水 |
| 使ってはならない消火剤 | 情報なし |
| 火災時の特有の危険有害性 | 可燃性液体。 当該製品は火災時に構成成分由来の刺激性もしくは有毒なヒューム（またはガス）を放出する。 当該製品の燃焼ガスには、一酸化炭素などの他、構成成分由来の窒素酸化物系あるいはリン酸化物系、硫黄酸化物系、ハロゲン酸化物系のガスなどの有毒ガスが含まれることがあるので、消火作業の際には、煙を吸入しないように注意する。 |
| 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置 | 消火作業では、適切な保護具（手袋、眼鏡、マスクなど）を着用する。 |
| 6. 漏出時の措置 | |
| 人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置 | 裸火、火花禁止、禁煙。 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 作業には、必ず保護具（手袋、眼鏡、マスクなど）を着用する。 保護用眼鏡、ゴム製の靴、保護用手袋を着用する。 適切な呼吸用保護具を着用する。 大規模漏出の場合、漏出区域より直ちに退避させる。 漏出区域を換気する。 |
| 環境に対する注意事項 | 漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。 |
| 封じ込め及び浄化の方法及び機材 | 少量の場合、吸着剤（土・砂・ウエスなど）で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾などでよく拭き取る。 多量の水で洗い流す。 多量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてからドラムなどに回収する。 |

| | |
|--|---|
| 二次災害の防止策 | <p>砂や土を使用して漏出の拡大を防ぐ。</p> <p>漏出物を回収すること。</p> <p>付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。</p> <p>滑って転倒する事故を引き起こす可能性があるため、製品の拡散を避ける。</p> <p>漏出物の上をむやみに歩かない。</p> <p>火花を発生させない工具を使用すること。</p> |
| 7. 取扱い及び保管上の注意 | |
| <p>取扱い</p> <p>安全取扱注意事項</p> | <p>熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。</p> <p>適切な保護手袋、保護眼鏡、保護衣、保護面を着用すること。</p> <p>粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。</p> <p>取扱い後はよく手を洗うこと。</p> <p>この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。</p> <p>作業所の十分な換気を確保する。</p> <p>取扱い後は手などをよく洗うこと。</p> |
| <p>衛生対策</p> <p>保管</p> | <p>涼しいところに置くこと。</p> <p>換気の良い場所で保管すること。</p> <p>施錠して保管すること。</p> |
| 安全な保管条件 | |
| 安全な容器包装材料 | 情報なし |
| 8. ばく露防止及び保護措置 | |
| <p>許容濃度等</p> <p>設備対策</p> | <p>情報なし</p> <p>ばく露のリスクがある場合：取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。</p> <p>ばく露のリスクがある場合：健康障害リスクを低減させるための設備（局所排気装置等）を設置する。</p> <p>蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。</p> |
| <p>保護具</p> <p>呼吸用保護具</p> <p>手・皮膚の保護具</p> | <p>保護マスクの着用が望ましい</p> <p>保護手袋、保護衣の着用が望ましい</p> |

| | |
|----------|---|
| 眼、顔面の保護具 | 保護眼鏡の着用が望ましい |
| 特別な注意事項 | リスクアセスメント等の結果に応じて、適正な保護衣、履物を選択し、着用すること。 |

| | |
|-------------------------|---|
| 9.物理的及び化学的性質 | |
| 物理状態 | 液体 |
| 色 | オレンジ |
| 臭い | データなし |
| 融点／凝固点 | 融点： 18.45°C （ジメチルスルホキシドとして） |
| 沸点又は初溜点及び沸騰範囲 | 189°C （ジメチルスルホキシドとして） |
| 可燃性 | 可燃性 |
| 爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界 | 爆発限界 下限 (LEL): 2.6 vol % 爆発限界 上限 (UEL): 42 vol % （ジメチルスルホキシドとして） |
| 引火点 | 87°C （ジメチルスルホキシドとして）（密閉式） |
| 自然発火点 | データなし |
| 分解温度 | データなし |
| pH | データなし |
| 動粘性率 | データなし |
| 溶解度 | データなし |
| n-オクタノール／水分配係数（log 値） | データなし |
| 蒸気圧 | データなし |
| 密度及び／又は相対密度 | 密度: 1.1 g/cm³ |
| 相対ガス密度 | データなし |
| 粒子特性 | データなし |
| その他のデータ(放射性、かさ密度、燃焼持続性) | データなし |
| 10.安定性及び反応性 | |
| 反応性 | 適切な取扱い及び保管条件において、危険有害な反応は生じない。 |
| 化学的安定性 | 情報なし |
| 危険有害反応可能性 | 情報なし |
| 避けるべき条件 | 熱、高温面との接触を避ける。炎や火花の禁止発火滅をすべて断つ。 |
| 混触危険物質 | 酸化剤。 |
| 危険有害な分解生成物 | 加熱や燃焼により分類し、有害な一酸化炭素、二酸化炭素、硫黄酸化物などの有害なヒュームが発生することが |

| | |
|---|---|
| | ある。 |
| 11. 有害性情報 | |
| 急性毒性 | |
| 経口 | 分類できない |
| 経皮 | 分類できない |
| 吸入 | 分類できない |
| 皮膚腐食性／刺激性 | 分類できない |
| 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 | 分類できない |
| 呼吸器感作性又は皮膚感作性 | 分類できない |
| 生殖細胞変異原性 | 分類できない |
| 発がん性 | 分類できない |
| 生殖毒性 | 分類できない |
| 特定標的臓器毒性（単回ばく露） | 区分 2（呼吸器） ジメチルスルホキシド：区分 2（呼吸器） |
| 特定標的臓器毒性（反復ばく露） | 分類できない |
| 誤えん有害性 | 分類できない |
| その他の情報 | 情報なし |
| 12. 環境影響情報 | |
| 生態毒性 | 本製品は水生生物や環境への有害影響に関する情報が ない |
| 水生環境有害性、短期(急性) | 分類できない |
| 水生環境有害性、長期(慢性) | 分類できない |
| 残留性・分解性 | データなし |
| 生態蓄積性 | データなし |
| 土壌中の移動性 | データなし |
| オゾン層への有害性 | 分類できない |
| その他の有害性 | データなし |
| 13. 廃棄上の注意 | |
| 化学品（残余廃棄物）当該化学品が付着している汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報 | |
| 残余廃棄物 | 内容物、容器を国、都道府県又は市町村の規制に従って廃棄すること。 専門の廃棄物処理業者に業務委託して廃棄すること。 廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和などの処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 |

| | |
|---|--|
| 付着している汚染容器及び包装 | 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 |
| 14. 輸送上の注意 | |
| 国際規制 | |
| 航空規制情報（ICAO/IATA） | 輸送危険物には該当しない |
| 国連番号 | 非該当 |
| 品名（国連輸送名） | 非該当 |
| 国連分類（危険有害性クラス） | 非該当 |
| 容器等級 | 非該当 |
| 海上規制情報（IMO） | 輸送危険物には該当しない |
| 国連番号 | 非該当 |
| 品名（国連輸送名） | 非該当 |
| 国連分類（危険有害性クラス） | 非該当 |
| 容器等級 | 非該当 |
| 海洋汚染物質 | 非該当 |
| MARPOL73/78 付属書 II 及び IBC コード によるばら積み輸送される液体物質 | 非該当 |
| 国内規制 | |
| 航空規制情報 | 輸送危険物には該当しない |
| 海上規制情報 | 輸送危険物には該当しない |
| 陸上規制情報 | 消防法の規制に従う |
| 輸送又は輸送手段に関する特別の安全策 | 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。 |
| 15. 適用法令 | |
| 薬機法 | 非該当 |
| 安衛法 | 該当：ジメチルスルホキシド（安衛法施行令 別表名称 2-1053 、名称などを表示し、又は通知すべき危険物質及び有害物、規制別表第 2 の 1053 令和 8 年 4 月 1 日施行、皮膚吸収性有害物質） |
| 化管法 | 非該当 |
| 毒劇法 | 非該当 |
| 化審法 | 非該当 |

| | |
|----------------------|--|
| 水質汚濁防止法 | 非該当 |
| 航空法 | 非該当 |
| 船舶安全法(危険物船舶運送及び貯蔵規則) | 非該当 |
| 消防法 | 該当：ジメチルスルホキシド（第4類引火性液体、第三石油類水溶性液体（法第2条第7項危険物別表第1・第4類）） |
| スイス連邦法 揮発性有機化合物の特別税法 | 非該当 |
| 16. その他の情報 | |
| その他の情報 | 本 SDS は JIS Z7253:2019 に準拠して作成しています。ここに記載された情報は、シスメックス 株式会社の最善の見地に基づくもので、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。本品の適正に関する決定は使用者の責任において行ってください。 |
| 略語 | 薬機法：医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律 安衛法：労働安全衛生法 化管法：化学物質排出把握管理促進法 毒劇法：毒物及び劇物取締法 化審法：化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律 |
| データの主要な文献参照と出典 | NITE GHS 分類公表データ |